令和４年度補助系統別事業評価票（ ゆめころん（赤ルート） 線）

１．補助系統の概要(△)

系統名	運営主体	運行事業者	区間	キロ程	運行回数	関係市町村
ゆめころん（赤ルート）	武豊町	フジキュー整備㈱	武豊町役場～イオン半田店～武豊町役場	12.8 km	9.0 回	半田市　武豊町
細系統				km	回	
				km	回	
				km	回	

※「細系統」には、補助上同一系統とみなされている系統について、系統ごとの情報を記載(系統名、区間は他の系統と違いが分かるよう記載)

接続の状況(△□)

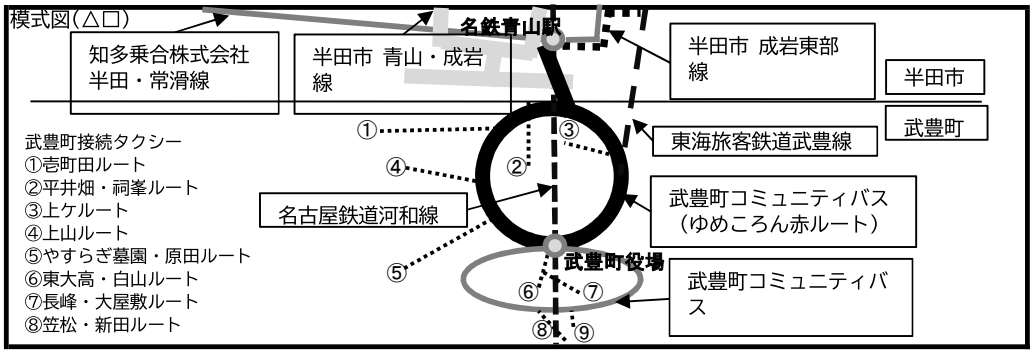
＜接続する系統＞

名古屋鉄道河和線
東海旅客鉄道武豊線
半田市 青山・成岩線「ごんくる」
半田市 成岩東部線「ならワゴン」
知多乗合株式会社 「半田・常滑線」

＜接続される系統＞

武豊町コミュニティバス（ゆめころん青ルート）
武豊町接続タクシー（令和4年10月改編実施）
壱町田ルート、平井畑・祠峯ルート、上ケルート、上山ルート、やすらぎ墓園・原田ルート、東大高・白山ルート、長峰・大屋敷ルート、笠松・新田ルート、砂水ルート

模式図(△□)



武豊町接続タクシー
①壱町田ルート
②平井畑・祠峯ルート
③上ケルート
④上山ルート
⑤やすらぎ墓園・原田ルート
⑥東大高・白山ルート
⑦長峰・大屋敷ルート
⑧笠松・新田ルート

２．R４年度の運行状況

事業実施の適切性

計画どおり運行されたか(△)

評価	計画どおりか。そうでない場合は理由
A	補助対象期間の開始日から、天候等による影響以外での運休や大幅な遅延もなく、所定の事業計画どおりの運行が実施されている。

評価の基準＜事業実施の適切性＞
A：事業計画どおりの運行回数が確保されている場合
B：車両故障等運行事業者の責にすべき事由により、運休（一部区間の運休を含む）が生じた場合

評価の基準＜目標・効果達成状況＞
A：年間目標利用者数を達成できた場合
B1：年間目標利用者数は達成できなかったものの、目標の75%以上の利用があった場合
B2：年間目標利用者数は達成できなかったものの、目標の50%以上の利用があった場合
C：年間利用者数が目標の半数に満たなかった場合

《参考数値》　主要指標の推移(△)

年度		30年度	元年度	2年度	3年度	4年度
年間利用者数【人】		40,655	49,230	39,436	39,655	41,667
平均乗車密度（実績）		3.4	4.1	2.1	1.9	5.4
輸送量	（計画）	29.2	32.4	21.1	36.9	18.4
	（実績）	36.7	44.2	18.4	16.7	48.6
収支率（実績）		28.60	27.00	12.30	9.40	37.69

目標・効果達成状況

評価		目標の達成状況(△)
A	目標	38,100
	実績	41,667
	達成率	109.4%
	要因	新型コロナウイルス感染症「第6波」の期間中は他の月と比べ、利用者数が減少したが、車内掲示等を実施し、その他の期間は回復傾向であった。

運営主体の所見、理由分析、認識(△)

平成30年10月からの赤ルートの名鉄青山駅への乗り入れ、令和元年10月から高齢者を対象とした無料乗車券発行事業及び回数券発行事業を開始した。利用の定着と利用者数の確保に繋がっているため、継続実施をしている。令和3年2月には、バスの安全利用及び新型コロナウイルス感染症対策を目的に、バス車内の抗菌・抗ウイルスコーティングを実施。
令和元年度のコロナ禍前の数値には至っていないが、令和2年度、令和3年度のコロナ禍に比べ回復傾向である。バスの安全利用及び新型コロナウイルス感染症対策のため、引き続き車内掲示等による会話を控える等の呼びかけおよび利用促進策を図っていく。

運行事業者の所見等（△）

平成30年10月からの赤ルート名鉄青山駅への乗り入れ、令和元年10月から高齢者を対象とした無料乗車券発行事業及び回数券発行事業により、利用の定着と利用者数の確保に繋がっている。特に、大型商業施設（イオン半田店）や名鉄青山駅の乗降者数は他の停留所に比べて多く、利用者数の維持・確保に必要である。
新型コロナ第6波による利用者数が減少する期間もあり、コロナ禍前には至っていないが、回復傾向である。

市町村の所見、理由分析、認識(□)

市町村名：半田市

H30.10の本市内バス路線の大幅再編で本市および武豊町のバス停が青山駅に新設されたことにより、青山駅以南に移動する選択肢が増え、広域的な移動利便性が向上した。R2以降、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に伴う外出制限等が影響する中、バス利用者の拡大を目指すため、R1.10に開始した高齢者を対象とした運転免許自主返納促進事業は継続実施し、バス利用券（又はタクシー券）を交付している。その後も、R3の青山駅のバスシェルターの設置や、青山駅をはじめとする鉄道駅と接続するバス路線の新設、R2から開始したコミュニティバス（「イオン半田店」「青山駅」に乗り入れの）車内の抗菌・抗ウイルスコーティングの継続実施などにより、バス利用の安全性と移動利便性が一層高まったものと捉えている。武豊町と連携した交通環境の整備や利用促進等により利用者数は対前年比で増加したことから、コロナ禍における利用者数の減少に歯止めをかけることができたものと考える。

市町村名：武豊町

平成30年10月からの赤ルートの名鉄青山駅への乗り入れ、令和元年10月から高齢者を対象とした無料乗車券発行事業及び回数券発行事業を開始した。利用の定着と利用者数の確保に繋がっているため、継続実施をしている。令和3年2月には、バスの安全利用及び新型コロナウイルス感染症対策を目的に、バス車内の抗菌・抗ウイルスコーティングを実施。
令和元年度のコロナ禍前の数値には至っていないが、令和2年度、令和3年度のコロナ禍に比べ回復傾向である。引き続き、バスの安全利用及び新型コロナウイルス感染症対策のため、車内掲示等による会話を控える等の呼びかけおよび利用促進策を図っていく。今後も広域的な交通網としての確保維持が必要である。

複数市町村を跨ぐ系統としての役割

指標(市町村を跨いでの利用)		利用状況及び所見(△)
市町村を跨ぐ利用者数(△)	1,641　人/月	半田市の大型商業施設（イオン半田店）と鉄道（名鉄青山駅）に接続する停留所を設けたことで、行政境を意識することなく移動できる広域的な交通網が形成されている。路線全体の利用者の２割以上が半田市への乗り入れを行っており、利用者にとっても広域での移動が可能となっている。令和3年10月から令和4年9月の期間において、上記2ケ所の停留所の合計乗降者数は、対前年同期間比2,147人増となり、利用者の増加・定着につながっている。今後も広域的な交通網としての確保維持が必要である。
全利用者に占める率	23.6　%	
特記事項	令和3年10月から令和4年9月の「イオン半田店」「青山駅」停留所の乗降者数の合計	

住民の利用状況(□)

市町村名：半田市	市町村名：武豊町	市町村名：0	市町村名：0
近隣市町が乗り入れを行う青山駅にバスシェルターを設置し環境整備を図ったこと、また、乗り入れを行うバス路線を新設したことは、利用者の定着に寄与していると考える。	路線全体の利用者の２割以上が半田市への乗り入れを行っており、利用者にとっても広域での移動が可能となっている。令和3年10月から令和4年9月の期間において、上記2ケ所の停留所の合計乗降者数は、対前年同期間比2,147人増となり、利用者の増加・定着につながっている。今後も広域的な交通網としての確保維持が必要である。		

《参考数値・情報》　その他、運行改善や利用促進に参考となる数値・情報

運営主体《断面輸送量、競合系統合算断面輸送量、主な停留所乗降者数等》(△)

停留所別乗降者数の実績を見ると、鉄道（名鉄知多武豊駅、名鉄青山駅、ＪＲ武豊駅）での乗降者数の割合が４分の１以上を占めており、鉄道利用のニーズが高いことがわかる。今後も毎年利用実態を確認していく。また、半田市とともにイオン半田店のイベント（10/31）に出店、コミュニティバス車両（赤ルート）を展示し、幅広い世代の方にPRを図った。

沿線市町村《沿線の状況等、すべての沿線市町村一括記載》(□)

（半田市）R3.10には、武豊町とともにイオン半田店のイベントに出店し、イオンへ乗り入れているコミュニティバス車両の展示、乗車体験会等を通して、子どもから高齢者まで幅広い世代の方にバス交通全体の利用促進を図った。（イベント参加者1,000人以上）
また、既存路線に加え、R3.9に新設した路線にもバスロケーションシステム（Webサイトにアクセスすることで、バスが今どこにいるか、運行状況をリアルタイムで確認することのできるシステム）を導入し、待合・乗継環境の向上による利用者拡大を図った。

3．R4年度の取組状況

直近の事業評価結果(△)		運営主体の取組(△)	市町村の取組(□)			
A	事業評価を踏まえた取組	・令和元年10月から高齢者を対象とした無料乗車券発行事業及び回数券発行事業を開始し、利用の定着と利用者数の確保に繋がっている。継続実施をしている。 ・令和3年2月のバス車内での抗菌・抗ウイルスコーティング実施後も車内掲示等による会話を控える等の呼びかけを実施している。 ・利用者数は回復傾向であるため、引き続き、車内掲示等による会話を控える等の呼びかけおよび利用促進策を図っていく。 ・地域公共交通計画（令和4年4月）を策定し、持続可能な運行サービスの提供の確保への取組みを図る。 ・青ルートの路線延伸およびコミュニティバスを補う交通手段である接続タクシー制度の改正に伴い、新たな時刻表を作成した。	市町村名：半田市 両市町でイベントを活用した相互情報発信による新規バス路線を含めた路線全体の認知度の向上や高齢者運転免許自主返納促進事業やバスロケーションシステムの継続実施による利用定着・利用促進を図ったことで、利用者数は対前年比で増加し、利用者数の減少に歯止めをかけることができたものと考える。	市町村名：武豊町 ・令和元年10月から高齢者を対象とした無料乗車券発行事業及び回数券発行事業を開始し、利用の定着と利用者数の確保に繋がっているため、継続実施をしている。 ・令和3年2月のバス車内での抗菌・抗ウイルスコーティング実施後も車内掲示等による会話を控える等の呼びかけを実施している。 ・利用者数は回復傾向であるため、引き続き、車内掲示等による会話を控える等の呼びかけおよび利用促進策を図っていく。 ・地域公共交通計画（令和4年4月）を策定し、持続可能な運行サービスの提供の確保への取組みを図っていく。 ・青ルートの路線延伸およびコミュニティバスを補う交通手段である接続タクシー制度の改正に伴い、新たな時刻表を作成した。	市町村名：0	市町村名：0
改善点とした事項(△)						
・利用の定着と利用者数の確保のため、無料乗車券発行事業及び回数券発行事業の継続。 ・新型コロナ対策への取組として、車内掲示等による会話を控える等の呼びかけを実施。 ・地域公共交通計画（令和4年4月）を策定し、持続可能な運行サービスの提供の確保への取組みを図っていく。 ・老朽化したベンチの更新作業を住民団体と実施し、待合環境の改善を図った。						
関係者の連携等(△□)	その他の取組	住民団体の武豊町コミュニティバス・生活の足を考える会と協力し、停留所ベンチを製作し、老朽化したベンチの更新作業を実施することによって待合環境の改善を図った。	接続するコミュニティバスの運賃改定（小学生運賃の無料化）を実施し、バス利用の早期習慣化と将来的な利用者の増加を目的とした利用促進を図った。	・住民団体の武豊町コミュニティバス・生活の足を考える会と協力し、停留所ベンチを製作し、老朽化したベンチの更新作業を実施することによって待合環境の改善を図った。		
住民団体の武豊町コミュニティバス・生活の足を考える会と協力し、停留所ベンチを製作し、老朽化したベンチの更新作業を実施することによって待合環境の改善を図った。						

4．今後の課題

課題と認識している事項					
運営主体(△)	沿線市町村(□)				
①目標の達成状況に関する課題 ・新型コロナウイルス感染症対策の徹底及び収束に伴う公共交通利用回復のための利用促進 ②地域公共交通計画（令和4年4月策定）に基づく各事業の適切な実施 ・交通サービスの確保維持、向上 ・交通不便地域の対策 ・公共交通利用への転換の推進 ・住民団体等との協働 ・時代の変化への対応	市町村名：半田市 コロナ禍の新たな生活様式によりバス離れとなった利用者が、再度、安心してバス利用できる環境を整備する必要がある。 青山駅は半田市2路線、武豊町1路線、民間1路線の計4線の乗継拠点となっているため、乗り継ぎに関する情報発信を強化する必要がある。	市町村名：武豊町 ①目標の達成状況に関する課題 ・新型コロナウイルス感染症対策の徹底及び収束に伴う公共交通利用回復のための利用促進 ②地域公共交通計画に基づく各事業の適切な実施 ・交通サービスの確保維持、向上 ・交通不便地域の対策 ・公共交通利用への転換の推進 ・住民団体等との協働 ・時代の変化への対応	市町村名：0	市町村名：0	
運行事業者(△)					
高齢者を対象とした無料乗車券発行事業及び回数券発行事業の更なる周知による利用の定着と利用者数の確保。 新型コロナウイルス感染症対策の徹底及び収束に伴う公共交通利用回復のための利用促進。 更なる利用者確保のため、無料対象者以外の層（若年層）に対する利用を促すPR。					

5．今後の取組

課題に対応した取組、その他の利便性の向上、利用促進の取組					
取組時期	運営主体の取組(△)	市町村の取組(□)			
R5年度、R6年度に行う取組	①利用促進事業実施（無料乗車券等） ・新型コロナ対策および安全安心利用のため、車内掲示等による会話を控える等の呼びかけ ・安全な公共交通利用に関するＰＲ ・運転免許証の自主返納の呼び掛け ・公共交通を活用する生活スタイルへの転換の呼びかけ ・無料対象者以外の層（若年層）に対するコミュニティバス利用の呼びかけ ・新時刻表の配布（継続） ②地域公共交通計画（令和4年4月策定）に基づく事業の適切な実施	市町村名：半田市 バスの安全利用及び新型コロナウイルス感染症対策を目的に、引き続き、コミュニティバス車内の抗菌・抗ウイルスコーティングを実施する。 コロナ禍の新たな生活様式にバス交通が含まれるよう、乗車機会拡大を目的とした企画を実施し、利用促進を図る。 バス情報のGTFS化を完了させ、乗り継ぎ等に関する情報発信を強化する。	市町村名：武豊町 ①利用促進事業実施（無料乗車券等） ・新型コロナ対策および安全安心利用のため、車内掲示等による会話を控える等の呼びかけ ・安全な公共交通利用に関するＰＲ ・運転免許証の自主返納の呼び掛け ・公共交通を活用する生活スタイルへ転換の呼びかけ ・無料対象者以外の層（若年層）に対するコミュニティバス利用の呼びかけ ・新時刻表の配布（継続） ②地域公共交通計画（令和4年4月策定）に基づく事業の適切な実施	市町村名：0	市町村名：0

注．評価にＢ、Ｃがある系統（市町村にあっては、目標の達成状況に関しての評価がＢ、Ｃ）、又は平均乗車密度が3.0を下回る系統については、具体的な取組内容と収支率の目標値を記載すること。

6．地域公共交通計画（地域公共交通網形成計画）に記載した補助系統の目標と評価

	沿線市町村(□)			
	市町村名：半田市	市町村名：武豊町	市町村名：0	市町村名：0
目標	R4末に市内全路線バス利用者数2,700人/日	〈指標〉コミュニティバスの利用者数		
自己評価	計画策定当初の目標値が高すぎるため、目標達成は難しいものの、武豊町と連携した交通環境の整備や利用促進等により利用者数は対前年比で増加したことから、コロナ禍の利用者数の減少に歯止めをかけることができたものと考える。	利用者数は令和2年度、令和3年度のコロナ禍に比べ回復傾向であり、利用者目標値を上回ったが、令和元年度のコロナ禍前の数値には至っていない。青ルートの路線延伸およびコミュニティバスを補う交通手段である接続タクシー制度の改正に伴い、新たな時刻表等を活用し、更なるPR等を図り、引き続き利用者数の回復および増加を目標に事業実施を図る。		

7.補助系統に接続するフィーダー系統の利用・接続状況

沿線市町村(□)			
市町村名：半田市	市町村名：武豊町	市町村名：0	市町村名：0
半田市地区路線バスごんくる青山・成岩線が「青山駅」および「イオン半田店」バス停で接続している。2018年10月の新設以降右肩上がりで推移していた同線は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に伴う外出制限等により、R2に続きR3の利用者数も対前年比で減少したものの、上述のとおり、武豊町と連携した交通環境の整備や利用促進等により、利用者数の減少に歯止めがかかり、R4は復調傾向にある。	・高齢者への無料乗車券交付事業により利用者数は増加しており、青ルートの利用者数は令和4年6月に過去最多を記録した。 ・昨年度から検討していた青ルートの路線延伸およびコミュニティバスを補う交通手段である接続タクシー制度の改正を令和4年10月より実施する。		

通信欄　（この欄は関係者間で付記したいことや特記事項がある場合に利用する。県バス対策協議会事務局からの依頼事項についても記載する。）

※マクロを用いて集計しますので、セルの結合は絶対に変えないでください